

目次	概要	担当	スケジュール
第1章 計画策定の沿革と目的	保存活用計画の必要性と策定に至る経緯を説明。	文化財課	H27年度
第1節 保存活用計画策定の目的			
第2節 保存活用計画策定に至る経緯			
(1) 千葉市が定める他の計画との関係			
第3節 史跡加曽利貝塚保存活用計画策定部会の設置と経緯			
(1) 千葉市史跡保存整備委員会設置条例			
(2) 活動報告			
第2章 史跡加曽利貝塚の概要	多角的に加曽利貝塚を概観する。	文化財課でとりまとめる。	
第1節 加曽利貝塚の沿革	加曽利貝塚を取り巻く自然環境や生息する動植物を総合的に網羅する。 ＜関連他部署・団体＞ 環境保全課自然保護対策室、緑政課緑地保全係、都市河川課、加曽利自然観察会他	他部署や団体から情報を提供していただき、文化財課でとりまとめる。	
(1) 指定告示			
(2) 指定説明文とその範囲			
(3) 指定地の状況			
(4) 史跡整備の状況			
第2節 自然環境			
(1) 地形			
(2) 地質			
(3) 気象			
(4) 水文			
(5) 植物			
(6) 動物			
第3節 歴史的環境	加曽利貝塚とその周辺の歴史をとりまとめる。	総括報告書から引用。	
第4節 社会的環境	加曽利貝塚に関連する法的、行政的規制の取りまとめと、利用状況について把握する。	基礎調査報告書から引用	
(1) 土地利用状況			
(2) 規制及び関連法規			
(3) 史跡・博物館利用状況			
(4) 交通アクセス			
第5節 発掘調査の成果	各調査ごとにこれまでの主な成果をまとめる。	総括報告書から引用。	
第3章 史跡の構成要素	加曽利貝塚に関連する遺構、遺物、記録、施設、工作物などの構成要素をすべてリストアップし、台帳の作成を行う。		
第1節 史跡構成要素の分類			
第2節 史跡構成要素			
(1) 本質的価値を構成する要素			
(2) 保存活用に関する要素			
(3) 周辺の環境を構成する要素			
(4) 現代の利用に必要な要素			
(5) 史跡の保護に有効でない要素			
第4章 保存管理状況	各要素別の保存管理状況をとりまとめる。		
第1節 遺構保存状況			
第2節 遺物保存状況			
第3節 史跡内維持管理作業			
第4節 現状変更申請状況			
第5章 保存活用計画	史跡保護の基準を明確化し、活用の進め方の道筋を付ける。	H27年度で計画案を策定し、部会による審議を経てH28年度で確定する。	H28年度
第1節 保存活用の基本方針			
第2節 史跡及び周辺地域のゾーニング			
第3節 新たな価値評価の視点			
第4節 想定される障害及び危機管理			
第5節 保存活用計画の循環体系			
第6節 現状変更の取扱い基準			
第7節 追加指定及び公有化の可能性			
第6章 史跡整備とその活用	史跡整備のための、方針と課題のとりまとめ。		H28年度
第1節 整備・活用の基本方針			
第2節 整備の課題と方法			
第3節 活用の課題と方法			
第7章 運営及び体制づくり	実際の保存活用を継続していくための運営方法と体制整備についてとりまとめる。		
第1節 保存活用を推進する運営及び体制づくりの基本方針			
第2節 適切な保存活用を継続するための体制			
第3節 整備・活用を推進するために求められる体制			
第4節 持続可能な運営とそれを支える体制			
第8章 施策のスケジュールと進捗管理	計画した施策を着実に進めるための進捗管理をどのように行うのかとりまとめる。		
第1節 実施すべき施策とそれに掛かる期間			
第2節 実施計画総括表			
第3節 施策の到達進度を把握する指標の特定			
第4節 施策の進捗管理のための具体的手法			
添付資料1 用語一覧	用語の定義と意味をとりまとめる。		
添付資料2 構成要素台帳	各構成要素の台帳。内容としては、名称、規模、内容、素材、写真、図面、調査担当、資料の所在など。各要素ごとに台帳の様式を定めて作成する。		H27年度
(1) 本質的価値を構成する要素			
(2) 保存活用に関する要素			
(3) 周辺の環境を構成する要素			
(4) 現代の利用に必要な要素			
(5) 史跡の保護に有効でない要素			